

TOPICS 今号のトピックス

- 展示ホール常設展示コーナーのリニューアル完了
- 2012 秋の人気番組展、出前授業を開催
- tvk40周年を記念し、企画展示会&トーク・ショーを実施
- 「BL・クリエイター支援サービス」の本格運用を開始

■展示ホール常設展示コーナーのリニューアル完了

放送ライブラリーの9階展示ホールの常設展示は、昨年度から2年間にわたり更新計画を実施し、昨年7月には、来場者に人気のある体験コーナー「ニューススタジオ」と「きみはTVディレクター」をリニューアルした。昨年に続き今年、8月には「ウェルカムTV」と「プレイバックシアター」の内容を一新したほか、「放送のしくみ」と「フューチャーTV」の2つのコーナーを新たに誕生させた。これで9階ホールの常設展示は全面リニューアルとなった。

新しくなった常設展示の各コーナーは、体験型とし、タッチパネルでの操作など子供たちにも楽しみながらわかりやすく放送について学べるように工夫し、特に校外学習で訪れる小中学生に好評を博している。今回のリニューアルは(株)tvkコミュニケーションズならびに(株)日展の協力を得て実施した。

リニューアルした4つのコーナーの概要は、以下の通り。

□「ウェルカムTV」

～ ようこそ放送ライブラリーへ ～



9階展示ホールの入口でカメラとクロマキー技術を使って来館者を大型モニターに映し出し、お出迎えする。一面鏡ばりの中にモニターとカメラが埋め込まれており、背景には

放送局内のスタジオや調整室の映像が早送り流れ、そこに自分自身が映し出される。

普段経験できない不思議な空間を来場者に体験してもらいながら、これから始まる放送の世界へと誘導する。

『さあ、なつかしい映像との出会いと楽しい放送体験の始まりです。』

□「プレイバックシアター」

～ テレビの始まりからいまへ ～

テレビ放送開始から60年。1953年のテレビ放送開始当時の番組から今年の東京スカイツリー開業までのなつかしい番組や、国内外の重大ニュースのハイライトシーン、放送技術の進歩を、時代経過とともに約150インチの大迫力の大型スクリーン一面に複数の番組をマルチ上映するミニシアター。



大型スクリーンの両脇には、トランジスタテレビ、ビデオデッキ、テレビ情報誌など当時のなつかしい品々から最近のものまで時代に合わせてライトアップされる。そしてテレビ黎明期から2000年代の多メディア時代までを時代ごとに上映していく。

◇テレビ黎明期<1950年代>

ラジオの時代からテレビの時代へ。
1953年2月1日、日本でテレビ放送が開始。
当世人気があったのは、プロレスなどのスポーツ中継。
1958年の12月には東京タワーが開業した。

◇テレビ成長期<1960年代>

日本は経済成長真っ只中の時代。
1960年、カラー放送が開始され、1964年の東京オリンピックがカラーテレビの普及のきっかけとなった。
1969年7月21日アポロ11号が月面に着陸し、衛星中継で、世界中の人たちが感動を共有した。
テレビは娯楽の主役となった。

◇テレビ黄金期<1970年代>

1970年3月日本万国博覧会開催。
家庭用のビデオデッキも普及しはじめ、1979年にはポータブルオーディオプレーヤーが登場した。
ホームドラマ、学園ドラマ、アイドル誕生のオーディション番組、変身ヒーローものなど。天才子役も続々登場した。

◇ドラマ全盛期<1980年代>

バブル経済に象徴される華やかな時代。
放送技術も、音声多重放送、文字放送、BS放送、ハイビジョン放送と進歩をしていき、放送は多チャンネル化時代を迎える。
人気のトレンドドラマは、社会現象を引き起こすほど大きな力を発揮した。また日本国内だけでなく世界中が感動し、愛されるドラマも誕生した。

◇多チャンネル時代<1990年代>

「バブル経済」は90年代に入りかげりを見せ崩壊。
1995年1月17日阪神・淡路大震災が発生。
不安な世の中、人々を元気づける番組が登場。世代を超え

て親しまれるアニメ番組、ショーアップされた料理番組など。

◇多メディア時代<2000年代>

2011年3月11日東日本大震災が発生。

2011年7月24日アナログ放送から地上デジタル放送へ移行。
画面も4:3から16:9のワイド化。

2012年5月22日、東京スカイツリーが開業。

時代ごとに世相や時代背景のナレーションにあわせ、当時のなつかしい映像を交えながら展開していく、内容のある上映となっている。上映は16分間でセンサーによる自動再生。

□「放送のしくみ」

～番組が家に届くまで～

番組が家に届くまでの情報の流れを壁一面の大型パネルで表し、壁面中央には、タッチパネル



式のモニター2台を使い、アニメ化した放送局内のスタッフをタッチすると、そのスタッフの仕事の内容が分かることを目的とした新設コーナー。昨年リニューアルした「きみはTVディレクター」や「ニューススタジオ」で実際に放送体験したあとに、このコーナーで放送のしくみを知ることができ、来場者には放送の仕事が良くわかると大変好評である。

□「フューチャーTV」

～こんなテレビがあったらいいね!～



「テレビの音量も見る番組も録画予約も、リモコンがなくてもテレビに話しかければ、すべて思い通りにやってくれる『お話しTV』」など、近い将来本当に登場するかもしれない

理想のテレビ形態を出題し、来場者にタッチパネルで「いいね!」「イマイチ!」を選んでもらう。操作も簡単で小さなお子様にも楽しんでいただける人気のコーナーが誕生した。

■2012 秋の人気番組展、出前授業を開催

■秋の人気番組展

春秋恒例の企画展「2012秋の人気番組展」を10/21～11/25で開催した。この企画展示は、NHKと在京キー局、MX、tvkの新番組・人気番組のポスター、台本、ドラマの衣装や関連グッズ等を一堂に集めて展示するもの。各局ごとのブースには、撮影で使われた衣装や小道具、ニュースで使用した特大パネルやスタジオセットの模型、局キャラクターのグッズ等を展示、来館者たちは楽しそうに見入っていた。



今回は、テレビ東京の人気アニメ「ポケットモンスター」が放送15周年、「NARUTO」が10周年を迎えたことを受け、両アニメの歩みを特別に紹介した。また各局の番組PR映像の他、BS11の映像提供により3D番組の上映を行った。

各局のノベルティグッズも人気で、毎回このグッズプレゼントを楽しみに訪れる来館者も多い。また、校外学習や遠足のシーズンとも重なり、小中学生が展示物を指差しながら番組について賑やかに話し合う光景も見られた。来場者アンケートには、「各局の新番組を一度に知ることがで

きて良い」「どの番組を見てみようか参考になった」「台本がどれもカラフルなのに驚いた」等の感想が寄せられた。

■出前授業

放送ライブラリーでは、平成20年から校外学習で来館する小学生向けに「出前授業」を行っている。TBS・テレビ朝日の協力および放送文化基金の助成により、年間6～8回開催している。



本年度第1回目として、9月20日(木)に東京都の公立小学校5年生83名が受講した。TBSの講師が、「ニュースができるまで」の映像を交えながら、数あるニュースの中から放送するものを選ぶ基準や番組制作に携わる人々の役割などについて、約1時間にわたって説明した。子供達からも、「地震や事件などの緊急速報はどのように流すのか」「番組内で間違いがあった時はどうするのか」など、積極的な質問が上がっていた。出前授業の後は放送ライブラリーの施設に移り、ニュースキャスター体験やディレクター体験を行った。「出前授業」は、本年度はあと4回開催する予定。

■tvk40周年を記念し、企画展示会&トーク・ショーを実施

■『tvk40周年 その足跡と明日への歩み展』

放送番組センターの地元局でもある、tvk（テレビ神奈川）が本年、開局40周年に当たることから、9月7日（金）から10月8日（月・祝）までの間、企画展を開催した。これまでも長野、鳥取など全国の民放社の周年記念の際には、企画展の巡回や番組上映会などで協力してきたが、今回もこの一環として企画展を後援した。tvkの山崎社長からは「本展は、放送局として成長してきたtvkの足跡をご覧頂くと共に、これからは皆様に愛される身近なテレビ局でありたい、という私共の思いもこめたものです」との挨拶が寄せられた。

企画展の主な内容は、tvkの1972年開局から今日までの歴史や主な制作番組などの足跡をパネルで紹介、この関連で横浜、神奈川県内の主要な出来事などを神奈川新聞社の協力により、報道写真パネルでたどるコーナーも設置した。この他に、「キンシオ」「戦国鍋TV」「sakusaku」などの人気番組のセット、ポスター、衣装、着ぐるみなどの展示、犬や猫などを主人公にしたドラマのシリーズ作品の紹介、局の新キャラクター・カナガワニと40周年を記念して作られた『カモン！カナガワニ』のダンスを紹介するコーナーも展示された。

tvkの社会貢献活動を紹介するコーナーには、鎌倉在住の料理家・辰巳芳子さんが提唱し、全国的な運動に拡大した「大豆100粒運動」、今春からスタートした「どんぐりドリーム大作戦」など、県内各地の小学生などに広がった活動の様子をパネルや映像で紹介した。「かながわ検定」コーナーでは、過去の問題を出題し優秀な回答者にはtvkグッズのプレゼントがあることから、親子連れや若者などが熱心に問題に挑戦する姿が見られた。

「tvk制作番組上映会」は、放送ライブラリーで一般公開中のトーク番組やドキュメンタリーなどの他、上映会用に提供されたアニメ・子ども向けの最新番組が上映された。

企画展参加者のアンケートでは「sakusakuのヴァインちゃんと写真が写せて嬉しかった」「tvkは在京キー局とは違って地域密着というのが魅力だ。これからは魅力ある番組作りを期待する」「2歳の息子がカモン！カナガワニのダンスにはまり楽しく踊っているのでカナガワニに会いにきた」などの声が寄せられた。



■関連企画で、tvk人気番組『キンシオ』のトーク・ショーを開催（9月29日・情文ホール）

『キンシオ』は、東京・吉祥寺を拠点に活躍するイラストレーターのキン・シオタニさんが、「あいうえおの旅」「1,2,3の旅」などのコーナーを設けて、神奈川県内などの各地を訪ね、出会った人達や訪問先の様子をユニークな語りでレポートする番組（tvkは毎週月曜夜11時放送）。現在、北海道放送、群馬テレビ、とちぎテレビ、テレビ埼玉、千葉テレビなどでも放送中で、若い世代を中心に静かなブームを広げている人気番組だ。

トーク・ショーは、番組のテーマミュージックが流れる中、キンさんが登場、最初に「皆さんは抽選で当たったんですよ。結構多くの応募の中からです。（参加者がうなずくと）僕が何か言う度にうなずくの、いいですね。今日はこれでいきましょう」と軽快にスタートした。

同会には500人近くの応募があったが、当選した214人の参加で会場は満席、キンさんの約90分間単独のしゃべりに、終始笑いが絶えない楽しいトーク・ショーとなった。



自己紹介の中でキンさんは、「僕は、吉祥寺の井之頭公園で自分が書いた絵葉書を売るために、1人2人を相手に口で売りますよ。今も時間があればやっていますが、最近ではライブもやることになったんです。テレビの世界に入ったきっかけは、5~6年前にある局の深夜番組で、イラストを担当したり番組の構成も2~3本書いていたが、この番組のプロデューサーが、今の『キンシオ』のSプロデューサーでした。Sプロデューサーがtvkに転職したことから、レギュラー番組出演の話が進み、Sさんから「tvkでも一緒に番組をやりたい」と言われたが、自分の中では『ありがたいが、本当か!』と思った。でも人生論的に言えば、幸せの種を10個ぐらい蒔いておけば、2個ぐらいは本当になるんだよ。それから数ヶ月後に企画が通って番組が決まったんです」と秘話を披露した。

自分も面白くて、みんなも楽しんでくれる番組を作りたい!

番組の中でも出演コーナーがあり、ライブでも一緒に舞台に立つ落語家の立川志の吉さんとの出会いを紹介、キンさんは「志の吉さんから、僕の短編小説の『塩コーヒー』を落語でやらして欲しい、と話があったが、設定が現代なので、落語ファンには受けなかった。話の設定を「長屋」や「へっつい（かまどの意）」などにしようと思ったが、やはり自分自身が面白くない。自分も面白くて皆も面白いことが大事だと思う。

番組も同じで、皆さんから『こうして、ああして』と言われると、僕はひねくれているのでそれを裏切りたいと思ってしまう(笑い)。でも、本当はこの性格は直したいんですよ」と語った。

続いて、同番組の第1回放送(2010年1月17日)の映像を交



えてキンさんは、「放送で使った1月10日の『キンシノ』というライブの中で、tvkでの番組がスタートすることを報告した。僕の話はすぐ脱線してしまうので、誰か話を受け止めて

くれる人が必要で、志の吉さんに出演を頼んだんです」と番組スタート時のエピソードを紹介した。(注:志の吉さんは、番組の「隠居ベディア」コーナーで、キンさんが訪れる土地に因む小咄を語っている)

『キンシオ』は正直な番組でいたい

トーク・ショーでは、これまで各地を訪れた番組のクリップ映像を上映しながら、現地で遭遇した人達やお店の紹介、キンさん自身が「仕事したな!と感じた」回などについて、エピソードを盛り込んで話を進めた。キンさんは「僕達の場合は、正直な番組でいたいんです。この前、ロケ中にワイヤレス・

マイクが壊れたことがあって、近所の電気店に行ったが『お取り寄せになります』と言われた。カメラに付いていたマイクでしゃべって、リポーター調になったんですが、これでできるのならいいじゃない。僕はライブ好きだからかも知れませんが…。」「僕らの場合は、前もって予約したり撮影のお願いをすることはありません。でもテレビの難しさはありますが」「番組の“あいうえおの旅”で、“よ”の回の時に、視聴者は『横浜がくる!』と思っていたようだが、『横浜には行かぬーよ!』と、青森県下北半島の横浜町に行っちゃったんです(笑い)。予定調和を裏切りたいので、これはウルトラな感じだった」と、番組作りの舞台裏を語った。

純喫茶愛好家でもあるキンさんは、「椅子がフカフカ、コーヒーが500円未満、クラシックがかかっている、店員が不愛想!などが好きな純喫茶の条件」と紹介した後に、ある喫茶店で出会った、持参したハチミツをパンに塗ったりサラダやコーヒーにも入れるという“ハチミツおじさん”のエピソードを、即興で書いたイラスト付きで語った。

参加者のアンケートには、「面白すぎです。初回放送が見られたのが嬉しかった」「キンさんの生イラストが見られたこと、番組の裏話が聞けたことなど参加しなければできない体験だった」「キンさんの話を初めての方も多かったようで、会場がわいていたのを感じた」などの感想が寄せられた。

■「BL・クリエイター支援サービス」の本格運用を開始

平成22年12月から実施してきた「BL・クリエイター支援サービス」は、試験運用を終え、今年9月15日から本格運用を開始した。

本サービスは、放送局の若手制作者の研修や番組企画の参考にして頂くことを目的に放送ライブラリーの公開番組の中から「ドキュメンタリー・録音構成」「教育・教養番組」のジャンルの作品を選定。民放連会員社、NHKへ強固なセキュリティのもとIP伝送で映像をストリーミング配信し、放送局内のパソコンで番組視聴をしていただくもの。

利用にあたっては、まず放送局のグローバルIPアドレスを申請してもらい、利用者ひとりひとりに専用のサイトから「利用登録」手続きをしてもらう。センターではIDとパスワードを発行し、利用者に通知する。IDとパスワードでログインし、本サービスを利用する仕組みとなっている。

なお、本格運用開始にあたり、日本民間放送連盟、NHKと取り交わしている「ライブラリー業務に関する基本協定」に、BL・クリエイター支援サービスの実施に関する条項を加え改定した。また、各著作権管理団体と本サービス本格運用に関わる著作権、著作隣接権の送信可能化権について協議を行い、覚書の改定をおこなった。

システム面においては、試験運用での運用状況を分析し、セキュリティ面での強化策について番組保存委員会においても協議を行い、改修を実施した。試験運用期間中に対処したセキュリティ強化策は以下の通り。

- ①利用者側で、静止画像ならびに映像の取り込み、コピー、プリントアウトができないようにした。
- ②不正利用防止のため、配信番組の映像にクレジットを挿入した。
- ③セキュリティを保ったまま、配信側の回線のIP数を拡張し、放送局側で通信の設定を変更しなくても番組視聴ができるように改善した。

本格運用は、2012年9月15日からテレビ671本、ラジオ619本でスタートし、更に10月26日に番組を追加しテレビ1,237本、ラジオ628本となった。今後も順次番組を追加していく。

利用者アンケートでは、「番組制作・企画参考や名作・受賞作の鑑賞を目的に利用でき、大変役に立った」「横浜まで出向かなくても視聴ができ大変便利」「番組の追加を楽しみにしている」などの感想が寄せられている。

9月15日から11月15日までの利用状況は以下の通り。

◇グローバルIPアドレス登録社数 127社/200社(63.5%)

◇利用登録者数 346人(87社/200社)

◇利用実績数

・番組検索回数 942回

・テレビ番組 番組視聴回数 161番組/274回

・ラジオ番組 番組聴取回数 15番組/16回

今後も本サービスの充実を図り、放送局員への利用を促進していく。本サービスについてのお問い合わせは、当センター業務部まで(TEL:045-222-2881)。